

資金収支計算書

(自) 平成 27 年 4 月 1 日 (至) 平成 28 年 3 月 31 日

第1号の1様式

勘定科目		予算	決算	差異	備考
事業活動による収支	収入				
	児童福祉事業収入	494,567,000	541,353,048	-46,786,048	
	経常経費補助金収入	4,470,000	9,769,499	-5,299,499	
	受取利息配当金収入	365,000	236,663	128,337	
	その他の収入	4,635,000	4,931,095	-296,095	
	事業活動収入計(1)	504,037,000	556,290,305	-52,253,305	
	支出				
	人件費支出	356,020,000	353,390,925	2,629,075	
	事務費支出	94,695,000	89,544,872	5,150,128	
	事業費支出	41,825,000	39,817,237	2,007,763	
その他の支出	4,840,000	4,736,854	103,146		
事業活動支出計(2)	497,380,000	487,489,888	9,890,112		
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	6,657,000	68,800,417	-62,143,417		
施設整備等による収支	収入				
	施設整備等補助金収入	114,310,000	113,665,680	644,320	
	施設整備等寄付金収入	0	0	0	
	施設整備等収入計(4)	114,310,000	113,665,680	644,320	
	支出				
固定資産取得支出	218,760,000	218,103,301	656,699		
施設整備等支出計(5)	218,760,000	218,103,301	656,699		
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	-104,450,000	-104,437,621	-12,379		
その他の活動による収支	収入				
	積立資産取崩収入	196,399,000	196,009,426	389,574	
	その他の活動による収入	0	504,000	-504,000	
	その他の活動収入計(7)	196,399,000	196,513,426	-114,426	
	支出				
	積立資産支出	98,456,000	98,456,000	0	
	その他の活動による支出	0	504,000	-504,000	
	その他の活動支出計(8)	98,456,000	98,960,000	-504,000	
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	97,943,000	97,553,426	389,574		
予備費支出(10)	150,000	/	/		
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	0	61,916,222	-61,916,222		
前期末支払資金残高(12)	0	209,077,440	-209,077,440		
当期末支払資金残高(11)+(12)	0	270,993,662	-270,993,662		

事業活動計算書

(自) 平成 27 年 4 月 1 日 (至) 平成 28 年 3 月 31 日

第2号の1様式

勘定科目		当年度決算	前年度決算	増減	
サービス活動増減の部	収益	児童福祉事業収益	541,353,048		
		経常経費寄付金収益	9,769,499		
		その他の収益	146,200		
		サービス活動収益計(1)	551,268,747		
	費用	人件費	353,390,925		
		事業費	89,544,872		
		事務費	39,817,237		
減価償却費		23,060,546			
国庫補助金等特別積立金取崩額		-4,960,831			
	サービス活動費用計(2)	502,190,749			
	サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	49,077,998			
サービス活動外増減の部	収入	受取利息配当金収益	236,663		
		その他のサービス活動外収益	4,784,895		
		サービス活動外収益計(4)	5,021,558		
	費用	支払利息	0		
		その他のサービス活動外費用	3,398,854		
	サービス活動外費用計(5)	3,398,854			
	サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	1,622,704			
	経常増減差額(7)=(3)+(6)	50,700,702			
特別増減の部	収益	施設整備等補助金収益	113,665,680		
		固定資産受贈額	6,864,896		
		その他の特別収益	345		
		特別収益計(8)	120,530,921		
	費用	固定資産売却損・処分損	55,512		
国庫補助金等特別積立金積立額		113,373,000			
その他の特別損失		4,013,138			
	特別費用計(9)	117,441,650			
	特別増減差額(10)=(8)-(9)	3,089,271			
	当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	53,789,973			
繰越活動増減差額の部		前期繰越活動増減差額(12)	147,921,501		
		当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	201,711,474		
		基本金取崩額(14)	0		
		その他の積立金取崩額(15)	196,009,426		
		その他の積立金積立額(16)	98,456,000		
	次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)-(15)-(16)	299,264,900			

貸借対照表
平成 28 年 3 月 31 日現在

第3号の1様式

資 産 の 部				負 債 の 部			
勘定科目	当年度末	前年度末	増減	勘定科目	当年度末	前年度末	増減
流動資産	382,579,738			流動負債	111,586,076		
現金預金	312,420,812			短期運営資金借入金	713,447		
事業未収金	67,156,386			事業未払金	18,446,176		
立替金	500,000			預り金	183,371		
前払金	1,784,160			職員預り金	4,227,082		
短期貸付金	713,447			その他の流動負債	88,016,000		
仮払金	4,933						
その他の流動資産	0						
固定資産	1,217,219,702			固定負債	0		
基本財産	640,032,580			設備資金借入金	0		
建 物	118,025,303			その他の固定負債	0		
土 地	522,007,277						
その他の固定資産	577,187,122			負債の部合計	111,586,076		
建 物	10,719,743			純 資 産 の 部			
構築物	20,083,451			基 本 金	502,531,240		
車輛運搬具	4,424,290			基 本 金	502,531,240		
器具及び備品	7,957,718			国庫補助金等特別積立金	153,918,224		
権 利	116,920			その他の積立金	532,499,000		
ソフトウェア	1,386,000			人件費積立金	295,370,000		
人件費積立資産	295,370,000			施設整備等積立金	237,129,000		
施設設備整備積立資産	237,129,000			次期繰越活動収支差額	147,921,501		
				次期繰越活動収支差額	299,264,900		
				(うち当期活動収支差額)	53,789,973		
				純資産の部合計	1,488,213,364		
資産の部合計	1,599,799,440			負債及び純資産の部合計	1,599,799,440		

財 産 目 録

平成28年3月31日現在

社会福祉法人 新潟カリタス会

資 産 ・ 負 債 の 内 訳		金 額
I 資産の部		
1. 流動資産		
現金預金		
小口現金	本部、聖母乳児院、聖母愛児園、新潟天使園	38,526
普通預金	第四銀行見附支店他	214,177,328
定期預金	第四銀行見附支店他	98,204,958
事業未収金	H27年度措置費精算、一時保護委託料、児童手当他	67,156,386
立替金	専門学校入学金	500,000
前払金	H28年度新学学期準備費用	1,784,160
短期貸付金	H28.3月公共料金等 施設へ貸付分	713,447
仮払金	児童クラブ活動費用	4,933
	流動資産合計	382,579,738
2. 固定資産		
(1) 基本財産		
建 物	見附市学校町2丁目188番地5他（聖母乳児院・愛児園本舎）	49,285,217
" "	見附市学校町2丁目189番地7他（ひまわりの家）	11,489,993
" "	見附市学校町2丁目188番地2（アフターケア施設あすなろの家）	1
" "	見附市学校町2丁目191番地2（体育館）	34,518,248
" "	見附市学校町1丁目299番地8（カリタスの家）	2,043,748
" "	見附市学校町1丁目165番3他（たいようの家）	25,333,950
" "	新潟市西区青山6丁目1436番地110（新潟天使園旧本舎）	0
" "	新潟市西区青山6丁目1436番地111（新潟天使園事務棟）	11,739,191
" "	新潟市西区青山6丁目1436番地108（新潟天使園新本舎）	344,879,116
" "	見附市元町2丁目24番地1（新あすなろの家）	42,717,813
土 地	見附市学校町2丁目188番地5他二筆	30,189,900
" "	見附市学校町2丁目191番1	22,500,000
" "	見附市学校町1丁目299番地8他二筆	14,500,000
" "	見附市学校町2丁目184番1・185番1	26,491,522
" "	見附市学校町1丁目165番3他	12,000,000
" "	新潟市西区青山6丁目1436番地110	2,635,310
" "	見附市元町2丁目24番1	3,000,000
" "	新潟市西区青山6丁目1436番地108・526・740	6,708,571
	基本財産合計	640,032,580
(2) その他の固定資産		
建物	乳児院・愛児園スプリングラー、カーポート、天使園倉庫	10,719,743
構築物	グラウンドL型擁壁、たいようの家外構、冷房設備タンク、公共下水道配管	20,083,451
車両運搬具	アルト、シエンタ、モビリオ、ハイエース、ライフ、ラウム、タント、フリード	4,424,290
器具及び備品	業務用大型洗濯機・乾燥機、冷暖房設備他	7,957,718
権利	電話加入権	116,920
ソフトウェア	会計ソフト	1,386,000
人件費積立預金	第四銀行見附支店他	295,370,000
施設整備等積立預金	第四銀行見附支店他	237,129,000
	その他の固定資産合計	577,187,122
	固定資産合計	1,217,219,702
	資産合計	1,599,799,440
II 負債の部		
1. 流動負債		
短期運営資金借入金	H28.3月公共料金等 本部より借入分	713,447
事業未払金	H28.3月業者請求分・社会保険料、H27労働保険料精算不足分	18,446,176
預り金	井上設計事務所源泉徴収税	183,371
職員預り金	H28.3月社会保険料、税金、退職共済掛金	4,227,082
その他の流動負債	H27年度人件費積立預金、施設整備等積立預金	88,016,000
	流動負債合計	111,586,076
2. 固定負債		
	負債合計	0
	負債合計	111,586,076
	差引純資産	1,488,213,364

財 産 目 録

平成28年3月31日現在

社会福祉法人 新潟カリタス会

資 産 ・ 負 債 の 内 訳		金 額
I 資産の部		
1. 流動資産		
現金預金		312,420,812
小口現金	本部、乳児院、愛児園、天使園	38,526
普通預金		214,177,328
	第四銀行（本部、乳児院、天使園）	176,877,285
	長岡信用金庫（本部、乳児院）	4,462,839
	三井住友銀行（乳児院）	48,560
	三菱東京UFJ銀行（乳児院、天使園）	383,940
	北越銀行（愛児園、クラブ）	31,761,432
	大光銀行（乳児院、愛児園、天使園）	643,272
定期預金		98,204,958
	第四銀行（本部、乳児院）	63,000,000
	長岡信用金庫（本部）	15,925,365
	北越銀行（愛児園）	10,000,000
	みずほ信託銀行（本部）	9,279,593
事業未収金	H27年度措置費精算、一時保護委託料、児童手当他	67,156,386
立替金	専門学校入学金	500,000
前払金	H28年度新学期準備費用	1,784,160
短期貸付金	H28.3月公共料金等 施設へ貸付分	713,447
仮払金	クラブ活動費用	4,933
	流動資産合計	382,579,738
2. 固定資産		
(1) 基本財産		
建物		522,007,277
	見附市学校町2丁目188番地5他（聖母乳児院・愛児園本舎）	49,285,217
	見附市学校町2丁目189番地7他（ひまわりの家）	11,489,993
	見附市学校町2丁目188番地2（アフターケア施設あすなろの家）	1
	見附市学校町2丁目191番地2（体育館）	34,518,248
	見附市学校町1丁目299番地8（カリタスの家）	2,043,748
	見附市学校町1丁目165番3他（たいようの家）	25,333,950
	新潟市西区青山6丁目1436番地110（新潟天使園旧本舎）	0
	新潟市西区青山6丁目1436番地111（新潟天使園事務棟）	11,739,191
	新潟市西区青山6丁目1436番地108（新潟天使園新本舎）	344,879,116
	見附市元町2丁目24番1（あすなろの家）	42,717,813
土地		118,025,303
	見附市学校町2丁目188番地5他二筆	30,189,900
	見附市学校町2丁目191番1	22,500,000
	見附市学校町1丁目299番地8他二筆	14,500,000
	見附市学校町2丁目184番1・185番1	26,491,522
	見附市学校町1丁目165番3他	12,000,000
	新潟市西区青山6丁目1436番地110	2,635,310
	見附市元町2丁目24番1	3,000,000
	新潟市西区青山6丁目1436番地108・526・740	6,708,571
	基本財産合計	640,032,580
(2) その他の固定資産		
建物		10,719,743
	愛児園、乳児院本舎スプリンクラー	3,954,760
	たいようの家カーポート	211,571
	天使園倉庫	6,553,412
構築物	※固定資産管理台帳参照	20,083,451
車両運搬具	※固定資産管理台帳参照	4,424,290
器具及び備品	※固定資産管理台帳参照	7,957,718
権利	電話加入権	116,920
ソフトウェア	会計ソフト	1,386,000
人件費積立預金	第四銀行、北越銀行、大光銀行、三菱東京UFJ銀行、みずほ信託銀行、三井住友銀行	295,370,000
施設整備等積立預金	第四銀行、北越銀行	237,129,000
	その他の固定資産合計	577,187,122
	固定資産合計	1,217,219,702
	資産合計	1,599,799,440
II 負債の部		
1. 流動負債		
短期運営資金借入金	H28.3月公共料金等 本部より借入分	713,447
事業未払金	H28.3月業者請求分・社会保険料、H26労働保険料精算不足分	18,446,176
預り金	井上設計事務所源泉徴収税	183,371
職員預り金	H28.3月社会保険料、税金、退職共済掛金	4,227,082
その他の流動負債	H27年度人件費積立預金、施設整備等積立預金	88,016,000
	流動負債合計	111,586,076
2. 固定負債		
	負債合計	0
		111,586,076
差 引 純 資 産		1,488,213,364

平成 27 年度
事業報告

聖母乳児院

1. 経営、運営、組織の強化

- ① 組織、運営に関する基礎知識を深め、職員全体の連携、連帯意識を強化する
 - ・組織内各部署の役割を明示。職員個々に組織人としての自覚を促し、連携を深める取り組みを行った。次年度、さらに連携、連帯意識の強化を図りたい。
- ② 階層別院内研修の OJT と組織としての連携を強化する
 - ・研修担当委員による体系整備と、全社協「福祉職員キャリアパス対応生涯学習研修課程テキスト」活用により階層別期待する職員像をまとめた。27 年度院内研修の振り返り・評価に基づき、研修体制整備を進めると共に連携強化を図りたい。
- ③ 財務に関する基礎知識を深め、経営の連携を図る
 - ・内部経理担当者研修実施、決算報告及び現況報告の公表を通し、職員の意識が高まってきたところである。次年度も継続して取り組む。

2. 子どもの発達を保障する支援体制の充実

- ① 肯定的関わり、受容・応答的関わり of 継続
 - ・日々の養育支援と OJT、会議での話し合いにより実践に繋がっている。「発達の保障」の観点から、個々の発達課題に即した適切な関わりをさらに深める。
- ② チームによる養育体制の整備
 - ・複数担当制を試みたがシフト変更等により十分機能しなかった。その反面、クラス内で同じ目標を掲げ、個々の発達・特性に即した養育支援へと繋げることができた。今後、各部署間の連携を強化し「養育の連続性」を確保するための取り組みを行う。
- ③ 自立支援計画策定の仕組みの見直し
 - ・策定の仕組みを見直し、新たに自立支援計画策定要領を作成。様式の見直しも行った活用を始めたところである。次年度は養育支援方針との整合性を確認する仕組みの整備を進める。
- ④ 医療・療育を必要とする子どもの支援体制の充実
 - ・専門機関との連携を図りながら支援方法を共有し、日常生活場面導入への意識化を図った。次年度さらに連携を深め、支援体制の充実を図りたい。

3. 職員の資質向上

- ① 業務マニュアルの活用と定期的評価
 - ・業務マニュアルに準じた養育支援を行い、必要に応じて見直し・修正を行った。次年度はマニュアルに沿った業務遂行を可視化できる仕組みを構築し、機能させる取り組みを進める。
- ② 院内研修の計画的実施と実践への活用
 - ・概ね研修計画に沿って実施できた。研修内容が職員個々の意識向上及び実践活用へと繋がりがつあるため、個別研修計画に反映させ、資質向上を図りたい。
- ③ 院外研修の振り返りと実践への活用
 - ・研修報告書の閲覧、研修報告会により、研修内容を振り返る機会を設けたが、実

践への活用には課題が残った。研修目的の明示、学びたいことを明確化し、研修内容を実践に活用するための取り組みを進める。

④ スーパービジョン体制の充実

- ・階層別評価表による自己評価を年2回実施。評価に基づいたスーパービジョンの機会を設けたことにより個々の課題が明確になり、より具体的な指導、育成へとつながりつつある。次年度も継続して取り組み、個別研修計画に反映させる。

⑤ 自己啓発の推進

- ・今年度、新たな資格取得者はなし。階層別、職種別に必要とされる資格やスキルを明示し、組織として自己啓発の推進を図る。

⑥ 職員の健康管理

- ・衛生管理・感染対策の院内研修により、職員個々の自己管理への意識が高まった。メンタルヘルスと並行し取り組みを継続する。

4. 子どもの権利擁護の充実

① 不適切な関わりの未然防止とチェック体制整備

- ・権利擁護研修会、権利擁護についての意見交換を行い、乳児院版「人権擁護チェックリスト」を作成した。次年度はチェックリストを活用し取り組みを進める。

5. 関係機関との連携

① 他機関と連携しながら、子どもの代弁者として最善の利益を追求する

- ・児童相談所とは定期的にケース連絡会、必要に応じて個別ケース検討会議を実施。情報を共有しながらアセスメントを行い、最善の利益の追求と権利擁護に努めた。

6. 地域支援、家庭支援、里親支援体制の充実

① 地域支援、家庭支援、里親支援に必要な専門知識を深め、支援技術を向上させる

- ・地域支援についての基本方針を文書化したが、具体的な活動には至らず、次年度へ課題が残った。
- ・里親支援専門相談員を配置し、県、児相の里親担当者と業務内容を検討し、活動を始めた。
- ・施設内の家庭支援、里親支援は各リーダーを中心に必要な支援に取り組んだ。

② 地域の福祉ニーズを把握し、見附市こども課、児童委員等と連携を図りながら、地域支援に努める

- ・主任児童委員、ファミリーホームとの懇談会を実施し、地域の現状把握に努めた。

7. 第三者評価の取り組み

① 平成26年度受審結果をふまえ、施設の運営改善を図る

- ・26年度受審結果と「第三者評価基準」新基準をもとに共通評価基準、内容評価基準の自己評価を実施。必要な書類等の準備を進めた。次年度も継続し取り組む。

8. 施設設備整備

① 快適な環境の整備と修繕、維持管理に努める

- ・記録類の作業環境を整備。他、必要に応じて修繕、維持管理を行なった。

平成 27 年度

事業報告

聖母愛児園

1. 経営、運営、組織の強化

- ① 組織、運営に関する基礎知識を深め、職員全体の連携、連帯意識を強化する。
 - ・職員会議を通して、理事会、運営会議、施設長会議の報告等を行い、組織、運営に関して連帯意識の向上に努めた。
 - ・第三者評価項目の経営、運営に関する項目を全職員が取り組み、基礎知識、運営管理について関心の向上に努めたが、職員全体までは個人差があり、今後も継続して取り組む課題である。
- ② 各専門職(家庭支援、臨床心理士、基幹的職員、自立支援)の役割を明確にし、連携の強化と、子どもの最善の利益に還元する。
 - ・各専門職の役割を明文化したことにより、昨年よりも意図的に行動することができた。必要な会議には各専門職が参加し、複雑化、多様化するケースの対応に取組み、支援の向上を図った。
- ③ OJT委員会により、園内研修の計画的実施と、実践への活用を図る。
 - ・研修委員会初年度の取組として、園内研修、階層別研修を定期的に行い、資質向上につなげた。
 - ・次年度は個別研修計画、個別のニーズ、ビジョンに合わせた研修計画の立案につなげたい。
- ④ 財務に関する基礎知識を深め、経営の連携を図る。
 - ・今年度は「内部経理監査担当者研修」を3施設の主任に実施した。
 - ・財務に関する基礎知識は、専門分野が異なるため難しい面もあるが、予算執行については、各科目の予算額を意識した取組がされ連携が取れた。

2. 養育、支援技術の質の向上

- ① 養育マニュアルの活用と定期的見直し
 - ・養育マニュアル(全養協運営指針、ハンドブック、養育マニュアル)の活用は不十分であった。資料の活用については次年度への繰り越し課題である。
- ② 総合的アプローチ(コラボレーティブ、チームアプローチ、アウトリーチ)を学ぶ。
 - ・総合的アプローチを意識した支援をするには、個人の質、チームの質、専門職の質、役割を意識した支援等、奥行が深く次年度への繰り越し学びを深める。
- ③ 肯定的関わりと、当たり前前の生活ができる支援の意識化を強化する。
 - ・肯定感の育成は入所児童の重点であるが、職員間で関わり方の共有化が必要である
- ④ 自己啓発の推進
 - ・今年度は自主的資格取得者は1名。社会福祉士等国家資格の取得を推進していく。

3. 子どもの権利擁護の充実

- ① 権利擁護チェックリスト、子どもの権利ノートの活用
 - ・「子どもの権利ノート」の活用は不十分であった。内容と活用の仕方については、次年度の検討課題とする。
- ② 定期的チェックの実施
 - ・「権利擁護チェックリスト」は自己チェック後、園長と個人面接により振り返りを実施し、日常生活の中に意識した改善、向上を更に目指していかねばならない。

4. 関係機関連携、地域支援

- ① 他機関(各学校、児相、要対協)と連携し、包括的支援に努める。
 - ・各機関との連絡は年間通して定期的なもの、又、必要に応じて随時実践できた。
 - ・ケースによっては社会的養護を必要とする子供たちの支援者として、施設からの積極的なアプローチが必要である。
- ② 地域の福祉ニーズの把握と、地域支援に努める。
 - ・児童民生委員、ファミリーホーム等と懇談会を開催し、情報交換を行った。
 - ・施設解放、具体的な取組については、次年度への継続としたい。
- ③ CAP地域セミナーを開催する。
 - ・地域の関係者に呼び掛け、セミナーの開催をした。継続することにより子どもの権利擁護の質の向上を図りたい。

5. 家庭支援、アフターケアの充実

- ① 家庭支援に必要な状況把握と、支援技術の向上に努める。
 - ・家庭支援専門員の配置により複数対応ができるようになったが、課題解決の方策、技術向上にむけて、職員のOJT、システム作りを図りたい。
- ② 関係機関、又は卒園生と連携を図りながらアフターケアの充実を図る。
 - ・在園児と卒園児との交流会、座談会を通し自立の心構え等の取組を行った。
 - ・次年度は生活全般が掌握できるシートづくり、サポートの経過記録の整備に取り組む

6. 第三者評価

- ① 平成26年度の実施状況をふまえて、施設の運営改善を図る。
 - ・改定された平成27年度版の基準に基づいて全職員が自己評価に取り組んだ。
 - ・共通項目、内容項目の中で達成されていない項目については、分担を行い順次取り組んだ。次年度も継続して取り組む。

7. 施設整備

- ① 「あすなろ」の家新築と移転
 - ・平成28年3月31日、建物の引き渡し終了。
- ② 職員室、心理室の整備
 - ・職員室の整備終了
 - ・心理室は第2司祭館を借用
- ③ 本園、小規模施設の修繕、維持管理に努める。
 - ・必要に応じて、迅速に対応し、維持管理できた。

事業報告

新潟天使園

1. 児童養護施設職員としての意識の向上（子どもの生活環境の質を高めるために）

- ①子どもの心身の成長を的確に把握し、子ども自身のエンパワメントを尊重した支援をする
- ②子どもの人権を理解し、侵害しないように子どもの最善の利益を考え、子ども自身が自己実現できるように、権利擁護に努める
- ③子どもが主体になるように心がけ、また心が揺れ動く子どもを精神的に寄り添い支援していく
子ども、家庭、学校、児童相談所など連絡相談報告を重視しながら、より良い支援内容や方法を検討した。特に、家族の不安をかかえて日々苦しんでいる子どもへの支援として生い立ちの整理（ライフストーリーワーク）を通じて、今後の成長につなげるようにした。またアルバイトを希望する高校生の相談や支援を行い、失敗した子には気持ちを受け止め、前向きに取り組めるよう声かけした。

2. 養育支援者としての組織化と技術向上

①職員一人ひとりが資質を高める

- ・自立支援体制を整備し、標準的な実施方法の確立を目指す・園内研修体制を整備し、一定の養育や支援の水準を確立する・権利擁護の向上にむけた OJT を行う

集団生活という観点から心地よく過ごすことのできる雰囲気づくりを大切にしつつ今までの個々の生活体験や環境を十分考慮に入れながら、子ども一人ひとりが今何を求めているかを感じつつ関わるよう努めてきた。揺れ動いている子どもの心情の奥底にあるものは何かを支援する職員全員で考え、連携した関わりや言葉がけをもつようにした。第三者評価のチェックリストの内容を通して、日々行っている子どもへの言動改めて子どもの人権の理解や侵害していないか等を再確認した。

②職員集団として資質を高める

- ・職階層別マネジメントの OJT を実施し、組織化を図る
- ・危機管理に関するマニュアルを作成し整備する
- ・医療的支援、心理的支援、アフターケア並びに家庭支援関連の支援体制を整備する
- ・研修体制を整備し、体制を確立する

第三者評価のチェックリストの内容を通して、組織や業務内容等の整備に取り組んだ。支援体制はまだ実践を通じて取り組んでいるところであり今後も課題にしていく必要がある。研修体制は全体的な取り組みであり、まだ個別や階層別については不十分であり次年度に引き続き取り組む必要がある。

3. 施設設備

①修繕、維持管理に努める ②移設にともなう設備や物品の準備をする

物品の補充、修繕をし、生活しやすい環境を整えるとともに常に清潔な空間であるよう努めた。修繕できる物は、業者に依頼する前に考え修理に取り組んだ。平成27年度初めに修繕や移設に向けた一年の取り組みについて説明し準備について計画をたて、各会議等で打合せ等進捗状況を確認してきたが、取り組みには設計や建物構造、内装、物品購入に至るまで苦慮した。既に使用している物品は、そのまま使うことにしたが、職員や入所児童の構成等にも配慮が必要であったため、決定するためかなりの期間を必要とした。

4. 第三者評価

①受審後の自己点検の取組みを更に進める ②評価にそって改善点を整理し取り組む

平成26年度受審後の自己点検の取組みについて、定期的に、更に点検しながら改善に向けて話し合い取り組むことができた。課題を見つけやすく、また意識して業務に取り組むことができた。平成28年度体制によるユニット化への準備について整備は進められなかったが、支援については、どのように変えていくか考える良い機会になった。職員一人ひとりが取り組みの見直しを項目ごとに職員相互で話し合うことで、様々な見方ができた。また、点検内容を意識しながら取組み検討することが増えた。各職員の考え方を一致させたり、同じ気持ちで向き合うことに意味があると感じている。

1. 運営、経営、組織の強化

- ① 本園との連携を密にし、課題解決にむけて取り組む。
 - ・ 毎月定期的に職員会議をし、課題解決に向けて一体となって取り組んだ。
 - ・ 年度当初は保護者会の開催、年度途中で発生した一部利用者の不適切な行動問題に対しては、個別に対話の機会を持ち信頼関係に努めた。子ども達が安心して利用できる組織作りを強化したい。
- ② 見附市子ども課との連携を密にする。
 - ・ 見附市との委託事業であり、学校との連携、子ども課との連携を含め、随時連絡を取り合い運営できた。

2. 放課後児童支援員、補助員の専門性と質の向上

- ① 外部研修への参加と、資格取得、資質向上に努める。
 - ・ 学童保育に求められる資質の習得をめざし、必要な研修に参加し資格を取得した。
- ② 救急法、感染症、リスクマネジメント等の学習をする。
 - ・ 救急法の練習を定期的実施することが不十分であった。次年度の課題としたい。
 - ・ 感染症については、養護教諭を中心に理解できている。
 - ・ リスクマネジメントについては、取組の意識化ができなかった。次年度の課題としたい。

3. 学校との連携強化と、児童の安全確保

- ① 学校との情報交換を定期的実施し、児童の状況の把握に努める。
 - ・ 学校との連携は運営上欠かせない。課題を抱えた児童については、随時連絡をし、学校の指導と相違がないよう努めた。下校面においての安全指導にも十分な配慮をした。

4. 非常災害対策の強化

- ① 避難及び消火に関する訓練を定期的実施する。
 - ・ 避難訓練、消火訓練については不十分であった。次年度は真摯に取り組みたい。
- ② 消火器、非常口等、定期的に点検し安全管理に努める。
 - ・ 定期的に点検し、安全管理に努めた。

5. 子どもの権利擁護の向上

- ① 利用者の権利擁護、虐待防止等、人権に配慮した関わりに努める。
 - ・ 利用者の中には発達障害や、特性のある児童も含まれており、関わりが難しい面もあるが、子ども達の人権を尊重し、権利を侵害しない意識した関わりができた。

6. 施設設備整備

- ① 屋根、外壁の修繕の実施
 - ・ 見積金額が多額のため、次年度への繰り越しとした。
- ② アメニティを向上させ、修繕、維持管理に努める。
 - ・ 床張替、机の入れ替え等、快適な環境づくりに取り組んだ。

監事監査報告書

平成 28 年 5 月 23 日

社会福祉法人新潟カリタス会

理事長 菊地 功 殿

監事 川崎 久雄 

監事 中村 茂 

平成 27 年度の社会福祉法人新潟カリタス会の事業報告、財産
目録、貸借対照表及び収支計算書については、関連する法令
及び通知に従った監査の結果、適正に処理されていることを
認めます。